

持明院「はすの会」事務局

〒530-0001

大阪市北区梅田1-3-1

大阪駅前第一ビル9階

株式会社高野山寺月会

電話 06-6348-0530

FAX 06-6348-0170

メール: renraku@hasunokai.jp

HP: www.hasunokai.jp

はすの会 会報 No.56

平成30年(2018年)8月20日発行
平成8年(1996年)11月1日初版発行



高野は死者を祀る最高の霊場

古記録によると弘法大師ご入定

後平安時代の後期までは、高野山

への納経や納骨はまだ少なく、出

土された陶器などからみて天皇家

や貴族とそれを出自とする高位の

武士や僧侶に限られていました。

有縁の亡魂の遺骨を彼山(高野

山)に納むる事:(中略):花夷(都

と田舎)を論ぜず、年に随いて盛な

り」と仏教説話集の「沙石集」に

あり、鎌倉時代の後期(1278

〜88)には、高野山への納骨は年

を追って盛んになっていったこと

がうかがわれますが、室町時代中

期に至るや身分の上下に関わらず

いつそう盛んになったようです。

また中世を代表する百科事典に

は「骨を専ら高野に納むる事」と

いう項目があつて、次のような内

容が記されています。

△ 多くの人が高野山に骨を

納めるのはどのような理由からで

しょうか。

○ 納骨は高野山に限らず、霊

験あらたかな地で行われている風

習です。けれども高野山は特に秀

れた霊場なので、しきりに行われ

るのです。続けて同項には「最近

発見された」というお大師さまの

「御記文」が紹介され、その御記文

に曰く:(中略)我が山に送り置

くところの亡者の舍利は、我、毎日

三密の加持力をもつて先ず安養宝

刹に送り当来には我が山の慈尊説

話の聴衆の菩薩とすべし」と云々

―― 訳 ――

高野山に送り置かれた成仏でき

ないでいる死者のお骨は、私が毎

日ご祈念することを得られる超越

的な能力によって、まずは阿弥陀

如来のお住まいになる極楽浄土に

送り、五十六億七千万年後の未来

には、高野山で行われる「弥勒菩

薩(未来仏)」の説法を聴くことが

できる菩薩とします。

こうした史書に記載された納骨

盛行の背景には、お大師さまへの

信仰の高まりと高野山の霊場化が

広く浸透していったことは間違

ないと思われれます。

高野山は、その後も幾多の盛衰

を繰り返しながら、今日、日本中

で最も多くの人々が参詣する巡礼

地の一つとなり、日本人の総菩提

所と呼ばれる浄土となりました。

御廟の前では昼夜を分かたず信

者の唱えるご宝号の絶えることが

なく、納骨堂から立ちのぼる香煙

もまた、絶えることはありません。

※参照:「巡礼高野山」(山陰加春夫著)

会員便り 『年を重ねて気づく報恩感謝の心』

生前に戒名をつけていただけたこととで姉の心の支えになればと思います、このたびの要望となりました。

このたびは天候にも恵まれ、無事実家の法要をすませる事が出来ましたこと誠に有り難うございます。テレビや写真でしか見る事のなかつた金剛峯寺・壇上伽藍、そして霊宝館等、美しくととのえられた樹々、しだれ桜も終わりをむかえつつもみごとな枝ぶりで迎えてくれました。

私たち家族は戦後『平壤（ピョンヤン）』から引き揚げ、帰ってまいりました。

広島県竹原に帰った昭和二十一年九月二十日、その年の八月二十八日に伯父は母の帰りを待ちわびながら帰らぬ人となってしまいました。

そして次兄も従軍地「北支」での銃撃戦の折り銃弾が腹部を貫き

骨に迄喰い込んでいたそうです。

累々と横たわる死体の中に三日間も放置されたまま、一命だけはとりとめたものの廃人となって帰還してまいりました。後日談ですが亡くなった後、腸がぐちゃぐちゃになっていたと医者から聞かされました。

また当時は十九才の長姉も女学校での強制作業で体を壊し、一時は快方にむかっていたのですが帰国途中の辛苦に耐えきれず帰国後八ヶ月でなくなりました。

当時の日本ではお国の為に戦い廃人同様の戦傷者を救済するものはなく、全て家族がかかえ込むのです。

高齢のため、私が高野山に上れる最後になるかも知れない次兄の法要を心をこめて祈りたいと願

い、このたび叶えることができませんでした。

また私と年が近い姉は心の優しい人で母を援けて一生懸命に働いてくれました。私は当時自分の事しか考えていなかった様に思います。姉に全てを押し付けて家を出しました。年を重ねて気づいたことは、一緒に協力していれば姉は婚

期を逃すこともなかっただろう。母ももつと楽に暮らせただろうか、とか色々考えます。姉は他人でも困っている人がいると放っておけない優しさがありません。

性格は明るく、すぐ友達になります。今はケアハウスでゆつくり暮らしていますが、これから残された日々が、御佛に導かれながら穏やかでありますように、御佛の御心に少しでも近づけますように、

個人の努力だけではどうすることも出来ない時代のうねりの中で私達の戦後がようやく終わろうとする時、持明院様との御縁をいただいた事でやっと私の役目が果たせた様な気がしています。

これもご住職様を初め皆様方のご尽力のおかげと感謝申し上げます。

私も歳をとつてきましたし、姉を見送る時元気でいるかわかりません。後を娘に頼もうと思ひ、今回一緒に高野山へ行きました。

いずれ御世話になりますが、その節はよろしくお願いいたします。この度は大変御世話になりました。ありがとうございました。

平成三十年五月五日

前田 昭博 様
会員 U・K 拝

持明院永代供養の魅力

〈スタッフ 前田 昭博〉



近年、永代供養が身近になり、お墓の選択肢として必要不可欠になりました。

私たちは永代供養という言葉も聞き慣れない平成六年より、どこよりも先駆けて案内を行ってまいりました。

お蔭様でご縁を頂く機会も年々増加しており、誠心誠意努めさせて頂いてます。

持明院永代供養の魅力は、

まず第一に、開創以来1200年護り続けられている高野山奥之院にて、960年の歴史がある別格本山持明院が、永代にお祀りし続ける事です。

永代供養は将来をお約束する事で、どんなに説明しても、供養と管理が永遠に続くと、具体的に想像でき、安心できなければ、購入の判断が出来ません。

持明院永代供養はこの事が十分想像でき実践できる寺院です。

次の魅力は、一人一人の供養では無く、複数の方々を永代供養出来る事です。

ほとんど他寺の永代供養は、故人単独か、ご夫婦の永代供養ですので、何方か亡くなる度に申し込む必要があり、都度永代供養料が発生しますが、持明院は十霊位がご供養出来る永代供養よりございます。従って一度のお申込で、自身も含めたお墓として将来もご安心いただけます。

そして、それ以上にお喜びいただける魅力はお申込後の寺院とスタッフによる手厚いご供養でございます。

奥之院内仏舎利宝塔永代供養墓では、ご僧侶により毎日読経致しております。故人の方の年忌法要も50回忌までご案内致します。

50回忌のご供養を行っている他寺の永代供養は、めったにありません。それはご供養対象者（ご先祖様）を50年前までさかのぼってお知らせさせて頂いているからです。

また、ご縁を頂きました皆様に終生ご安心頂ける様、スタッフ一同精一杯お世話させて頂いております。日々お墓の管理・掃除も行ってまいります。

まだまだ至らない事も多々ございますが、ご要望ご用命ございしましたら、お気軽にお申し出下さい。

今後とも引き続き別格本山持明院、はすの会事務局との永代のお付き合い宜しくお願い申し上げます。

会員様 投稿写真

岡山県 小坂 様

小坂様は趣味でよく写真を撮られており、今回素敵な写真を頂きましたのでご紹介致します。



後楽園



後楽園



曹源禅寺

楽しい年中行事

別格本山持明院 住職・竹内崇雄



高野山の一年は、新年の除災・招福を祈願する年頭の修正会しゆしやうえに始まります。今なお、大小あわせて四十を超える年中行事が催されていますが仏教行事、特に開祖空海《弘法大師》にまつわるものが多いのは当然ですが、その中であって会員の皆様も参加されて楽しい代表的な行事・まつりをご紹介いたします。



青葉まつり

像を安置した花御堂の渡御が行われ、その前後を各種団体の老若男女が艶やかな行列を組み練り歩きます。全山を挙げてご生誕を祝う賑やかなお祭り（儀式）です。

もう一つは、八月十三日に催される『ろうそく祭まんどうくようえ（萬燈供養会、当日午後六時から奥之院に眠るすべての御霊みたまを供養する盆行事で、参拝者が供えた十万本にも及ぶろうそくの灯火に約2キロの参道の両側に立つ二十万基の五輪塔を照らし幽玄な世界を現出します。特にろうそく祭は、夏休み・お盆休みもあつて参詣者も多く、宿泊など早目の予約が必要となります。高野山おやまの楽しみは、行事や祭りだけにとどまらず、山上の四季折々の風情が皆様をお迎えいたします。今秋のご法要、皆様お揃いのご登嶺をお待ち申し上げます。合掌



ろうそく祭

秋季合同法要のご案内



暑い日が続きますが、さわやかな高野山の秋風はいかがでしょう。皆様には今年もぜひお参りにお越しください。

日時

平成30年9月23日(日)

12時30分より

(集合12時15分)

場所

持明院・本堂

法要料(参加費)

無料

(ご希望によりお布施は受け付けております)

ご参加

自由・予約不要

佛舍利宝塔の参拝時間

午前の部

10時～11時30分まで

午後の部

法要後～15時30分まで

●ご親族だけでなく、ご友人などもご参加いただけます。

●当日は12時30分ちようどから始まりますので、15分前までにお願いします。

●持明院には駐車場がありますが、場所に限りがございますので、できるだけ電車・バスでお越しください。

南海電鉄「こうや号」の特急券は、一ヶ月前から予約できます。

●高野山は山下より温度が下がりますので、冷えやすい方は念のため羽織るものをご持参下さい。

●持明院でご昼食をご希望される方はご予約が必要です。

お一人様2,160円(精進料理)